

INFORMATION



《ご案内》

■「縄文メトロポリスー IDOSAKUー」開催中

当センター考古資料展示室にて、平成 21 年 6 月 30 日（火）まで企画展を開催しています。

今回は、佐倉市宮内にある宮内井戸作遺跡の調査成果をまとめたものです。本遺跡は縄文時代後期・晩期の大規模な集落で、総重量 100t という大量の遺物が出土しました。そのなかから、縄文土器、土偶、装身具など注目される資料を「食」「祈」「装」というテーマごとに紹介します。



《NEWS》

■船形手黒遺跡現地説明会を開催

今回紙面でも紹介している成田市船形手黒遺跡において、昨年 11 月 15 日（土）に現地説明会を行いました。小雨まじりのあいにくの天気でしたが、総勢 200 名もの来場者がありました。



■道作古墳、船形手黒遺跡で体験発掘を開催

昨年 11 月 12 日（水）～ 14 日（金）に酒々井中学校の 1・2 年生、12 月 5 日（金）に佐倉中学校の 2 年生による職場体験を実施しました。道作古墳では、前方後円墳の周溝を実際に掘ったり、整理事業では遺物の水洗や拓本などを体験しました。

《速報》

■馬場遺跡（第 5 地点）から出土した骨角製品など

フィールドブック vol. 26 で紹介した印西市にある馬場遺跡（第 5 地点）の大型土坑ですが、その後の整理事業で土器

だけではなく、土偶、耳飾など多量の遺物がみつかりました。なかでも、骨角製品は印旛郡内では出土例が少なく、大変注目される資料です。

出土した骨角製品などは、銚^{もり}や釣針などの漁撈具、骨鏃・^{はす}弭などの狩猟具、簪・玉類・腕輪などの装身具と多岐にわたります。また、材料も鹿やイノシシの骨や角、牙、サメの歯、海洋性の貝など様々なものを用いています。弓に装着する弭は、ベンガラという顔料で赤く塗られていました。



出土した骨角製品など

《発掘中の遺跡》

がんばってます！

3月以降の予定

〈成田市〉船形手黒遺跡（古墳～奈良・平安時代）
台方宮代遺跡（古墳時代）
キサキ遺跡 4 地点（古墳時代）

《室内作業》

こつちもやってます！

〈本部統合事務所〉

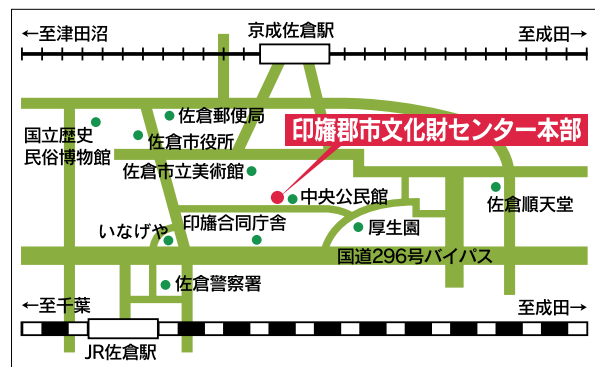
佐倉市鎗木町 198-3 TEL. 043-484-0133
野毛平上之内遺跡（成田市 縄文時代～近世）
野毛平泉台Ⅰ遺跡（成田市 縄文時代～近世）
野毛平泉台Ⅱ遺跡（成田市 古墳時代）
野毛平東方遺跡（成田市 古墳時代～奈良・平安時代）
東和泉城跡（成田市 中世）
鶴口遺跡（四街道市 縄文時代～古墳時代）
宮前遺跡（栄町 古墳時代～奈良・平安時代）

〈宮小路事務所〉

佐倉市宮小路町 27-1 TEL. 043-483-0522
宮内井戸作遺跡（佐倉市 縄文時代～中世）

《おしらせ》

※上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。詳細は本部へお問い合わせを！



平成21年3月16日 千葉県佐倉市鎗木町 198-3 ☎ 043 (484) 0126(代) FAX 043 (485) 9871
http://www.inba.or.jp (iモード) http://www.inba.or.jp/i/

発行・編集 フィールドブック vol.28



よつ かい どう し つる くち い せき 四街道市 鶴口遺跡



方墳全景（写真上が北西）



1 号主体部



2 号主体部



1 号主体部 出土遺物

鶴口遺跡は、四街道市北東部の亀崎地区、佐倉市との市境付近に所在します。今回の調査では、古墳時代後期、7世紀代の方墳がみつかりました。

古墳の周溝は2重に巡り、南側中央部で内側の溝が張り出し、外側の溝とつながっています。規模は、外側の周溝で東西方向が29m、南北方向が24mもあるものでした。内側の周溝は断面が逆台形で、幅1.5m、深さ60cmのしっかりしたのですが、外側のものは幅80cm、深さ30cmのやや浅いものでした。

埋葬施設である主体部は2基あり、1号主体部は、周溝が張り出した部分の北西側に設けられ、2号主体部はそのやや北側にありました。1号主体部は長さ3.1m、幅1.7mほどの長方形で、中からは鉄製の鏃、東海地方産の須恵器が出土しました。また、古墳の石室によく用いられる雲母片岩が破片で出土していることから、箱式石棺が作られていたのかもしれません。一方、2号主体部は長さ3.0m、幅1.5mほどの長方形で、1号主体部に比べ掘り込みが浅く、遺物も少量でした。

本遺跡のある四街道市北東部では、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての古墳や方形区画墓が多く造営されます。そのなかでもこの古墳は数少ない2重の周溝をもつ古墳で、貴重な事例のひとつといえるでしょう。

なり た し ふな かた て ぐる い せき 成田市 船形手黒遺跡



第2主体部出土 直刀・鉞



第2主体部出土 ガラス勾玉・小玉



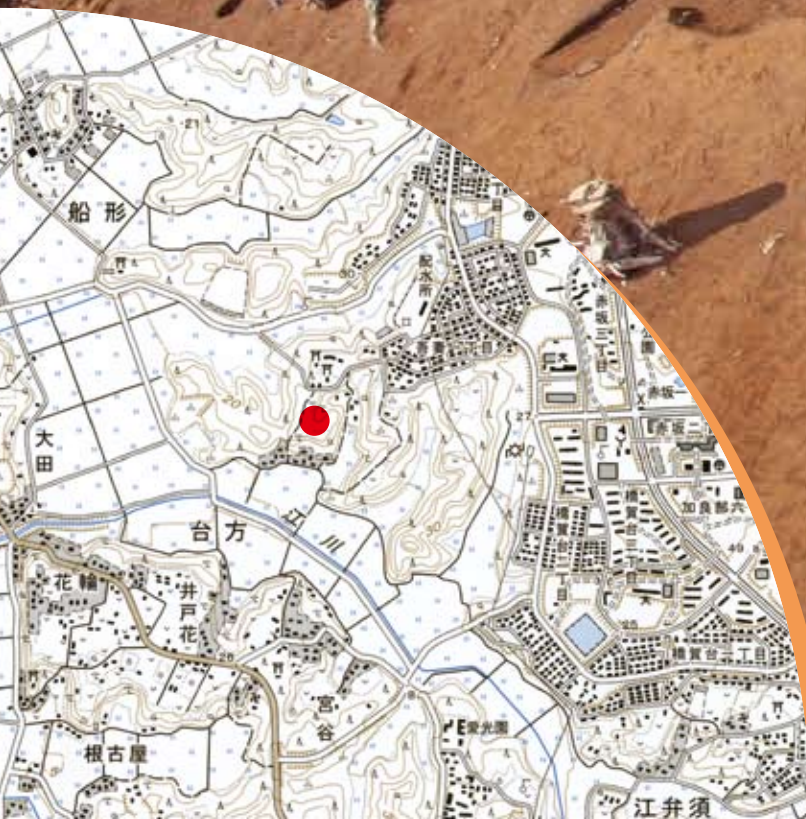
第2主体部出土 青銅鏡



第1主体部出土 石枕・立花



第1主体部出土 直刀



遺跡位置図 (S=1/25,000)

古墳全景

船形手黒遺跡は印旛沼の東岸 1.5km、成田市台方字鶴巻に所在する遺跡です。印旛沼の支流である江川に面した、標高 34m の台地上に位置しています。今回の調査では、船形手黒 1 号墳(仮)を初めとして、奈良・平安時代の住居跡、掘立柱建物跡などが見つかりました。

写真の古墳は、墳丘の大きさ約 25 m、高さ 2.2m の円墳です。古墳の周りには最大で幅 5 m、深さ 80cm の周溝が巡っています。古墳の墳頂部からは、穴を掘って直接木製の棺を納めた木棺直葬といわれる主体部が 2 基検出されました。

第 1 主体部からは直刀、鉄斧のほかに、滑石製の石枕と立花が出土しました。第 2 主体部からは直刀、鉄鉞のほか、青銅鏡、ガラス製の勾玉・小玉など豊富な副葬品が見つっています。出土した遺物から、5 世紀後半につくられた可能性が高いと考えられます。

本古墳は、6～7 世紀に成田ニュータウン地区を中心に展開した公津原古墳群に隣接しています。なかでも大型の古墳は 6 世紀代の築造と考えられており、本古墳はそれより少し古く、地域勢力が最盛を迎える前の時代の首長の墓であると思われます。

今回の調査を実施するにあたり、さらに複数の古墳が確認され、より印旛沼側に新たな古墳群が発見されました。公津原古墳群と同様に、本遺跡も印旛沼東岸地域において、重要な場所のひとつだったのではないのでしょうか。

静かな森に守られたいにしへの王たちが、今、再び永い眠りから目醒めようとしています。